

令和4年12月26日

教育学部長 殿

香川大学幸町地区統合事務センター（北）総務係
係員 佐々木

教育学部 SDGs チャレンジに関する企画提案書

企画名 教室使用におけるウォームシェアの普及及び定着促進

企画の背景・経緯

今回、教育学部長が提起された「広い空き教室を使用する際のエネルギー浪費問題」は、ニッチな範囲ではあるが私も少し気になっていたことである。業務上、講義室の机椅子など備品が壊れていないか不定期に見回っているが、その際ひとりで講義室内全ての照明と空調を使いながら睡眠していたり静かに自習していたりする学生を見かけたことがあり、前者はともかく後者は勤勉な学生だなと感心すると同時に、広い講義室でなくともよいのでは、と他人事のように思ったことがある。今回の問題提起を受けて、私も事務職員として当事者意識を持って考えてみようと思い、業務の延長上としてこの企画提案に取り組んだ。

企画のプロセス（仮説→提案）

まず、なぜ空きコマに広い講義室で一人ないし少人数で自習をするのか考えてみる。最初に補足すると、自習自体、学生の本分である勉学に対して自主的に励む姿は素晴らしいと思うし、今後も続けて欲しいと思う。今回言及したいのは「広い講義室で」という点である。（広い講義室、というと広さの定義は人によると思うが、ここでは仮に90名以上収容可能な講義室とする。参考：422講義室99名、812・822講義室96名収容可能。）

コロナ感染症が流行しはじめた頃に図書館や自習室以外にも自習スペースを確保するべく講義室が開放されたと推測されるが、中でも「広い講義室」で自習する理由は何だろうか。

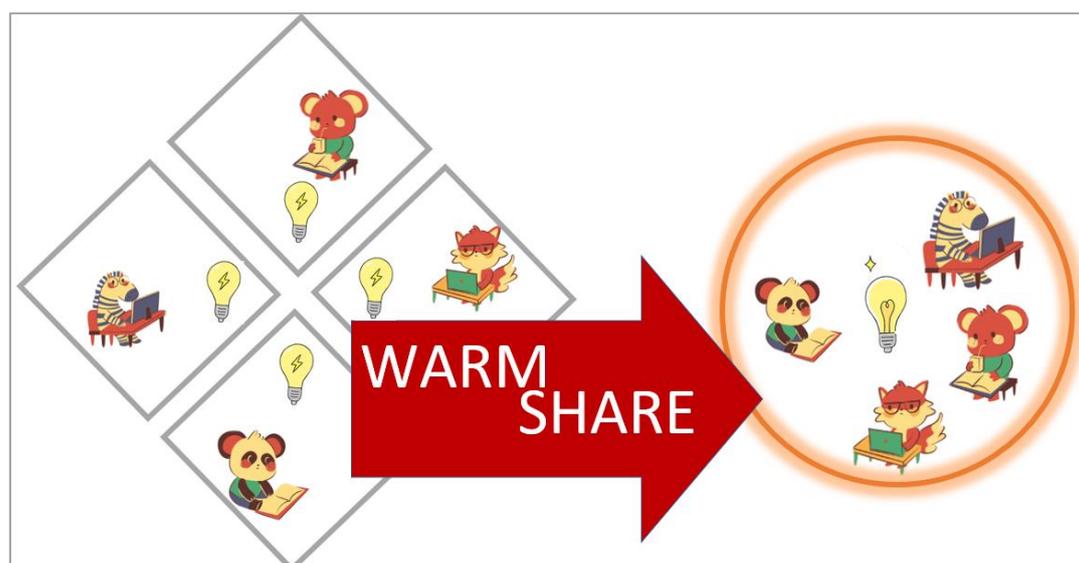
1. 空きコマの前後にその講義室で授業があり、移動しない方が楽だという思考が働くから。
2. 空き教室の場所がわからず、とりあえず近くにあった空き教室がたまたま広かったから。
3. 広い講義室の方がパーソナルスペースを広く取れて悠々と自習できるから。

当方で思いつく仮説はこのくらいであるが他にもあるかもしれない。ただ主張されるどのような理由にしてもおそらくエゴイズム（利己主義）的な考え方が発端としてあるのではないだろうか。自分が使いたい教室を使えたらそれでよいというエゴではなく、エコの意識を持ってもらうにはどうしたらよいだろう。

その方法として、新しい概念を知ってもらおうということを提案する。概念というと大袈裟ではあるが、要は教室を使用する際に共通認識を持ってもらいたいということである。具体的に、私は「ウォームシェア」というキーワードの普及及び定着促進を提案したい。ウォームシェアとは一人ひとりが別々の場所で暖房を使うのではなく、みんなで一つの部屋・場所に集まって暖房をシェアすることである。この考え方が広まり、今まで広い教室でバラバラに照明や空調を使用していた人たちが、ある程度の大きさの教室に集まって照明・空調をシェアできれば、エネルギーの浪費問題は少し改善するのではないだろうか。たとえば30名～60名程度収容可能な比較的小さい教室のうち特定の教室を「ウォームシェア推奨教室」としてPRすることで、エコに対する意識が高まり、自然と当該教室への移動と自習が誘発されるのではないかと考える。また、複数の教室を対象とし、どの空きコマであっても必ず1室以上空いているようにすると自習難民の問題も起きないと考える。

もしもこの企画が採用されたら、ひとりで誰にも邪魔されずに教室で自習したいという人も、一度ウォームシェアという言葉を使い出して、「あ、そうだ。SDGs チャレンジで言っていたウォームシェアの教室を使おう」と思ってくれる人が増えることを願う。

イメージ



終わりに

SDGsと聞くと、何か新しいことに全員総出で取り組んだり、企業が何か開発したりと大きなことかつ他人事だと思っていたが、意識すれば身の回りにも溢れており、気を付ければ少しだけでも何か貢献できることはあるのではないかという発見があった。

また、大学に関わる学生・教員・職員の三者が、それぞれ同じ問題について考えるという機会は今まで少なく、三者三様の意見があるだろうし、お互いどんなことを考えているのか発信・共有の場としてもSDGsチャレンジに取り組むことは意義のあることだと感じた。ほかの人は今回の課題に対してどう考えるのだろうかと関心を持った。ぜひ私の提案に対しても忌憚ないご意見をいただけたらありがたい。

以上